

講師紹介資料

2011年度 大津・草津地域マネジメントスクール
主催：大津・草津地域産業活性化協議会

氏名(しめい)	仲尾 功一 (なかお こういち) 氏
所属・役職	タカラバイオ株式会社 代表取締役社長
講演テーマ	「タカラバイオの事業戦略～バイオテクノロジーの活用～」
講演内容	当社は、バイオ研究者向けに研究ツールを提供する遺伝子工学研究事業、健康食品やキノコの製造販売を行う医食品バイオ事業、遺伝子治療・細胞医療の商業化に取り組む遺伝子医療事業を推進している。「研究開発の成否」がそのまま「事業開発の成否」に直結するライフサイエンス産業では、「テクノロジーの融合」がキーワードとなる。
略歴	1985年4月 寶酒造株式会社(現 宝ホールディングス株式会社)入社 2002年4月 タカラバイオ株式会社 取締役 2003年6月 常務取締役 兼 執行役員 2004年6月 専務取締役 兼 執行役員 2005年9月 Clontech Laboratories, Inc. 取締役(現) 2006年9月 宝ヘルスケア株式会社 取締役(現) 2007年6月 代表取締役副社長 兼 執行役員 2009年5月 代表取締役社長(現)、宝生物工程(大連)有限公司 董事長(現) 2009年6月 宝ホールディングス株式会社 取締役(現)
公職活動	財団法人 バイオインダストリー協会 理事 社団法人 農林水産先端技術産業振興センター 評議員 財団法人 京都高度技術研究所 理事 特定非営利活動法人 近畿バイオインダストリー振興会議 理事

氏名(しめい)	芝原 茂樹 (しばはら しげき) 氏
所属・役職	株式会社近江物産 代表取締役
講演テーマ	「使用済みプラスチックからバージン同等にマテリアルリサイクル～経済産業省3Rロードマップに沿った技術開発～」
講演内容	天然資源が枯渇すると言われる中、都市油田・廃プラスチックを有効活用する事を使命とし循環型社会形成に貢献して行きます。 企業が市場ニーズに応えるため、産学連携により、うまく研究シーズとのマッチングを行い、高付加価値のある技術や商品を次々と生み出す秘訣などについてご紹介いたします。
略歴	1950年 生まれ。 1969年 工業高校卒。 1975年 電機機器メーカーを経て、設立間もない芝原商店に入社 1977年 株式会社近江物産設立と同時に経営に参画。 1978年 専務取締役に就任し、営業分野を担当し市場開拓を行う。 2005年 株式会社近江物産代表取締役に就任。
公職活動	公益社団法人 滋賀県環境保全協会 業務執行理事 社団法人 滋賀県産業廃棄物協会 理事 特定非営利活動法人資源リサイクルシステムセンター 監事 日本プラスチック有効利用組合 理事 滋賀県プラスチック工業会 理事 京滋プラスチックリサイクル工業会 理事

講師紹介資料

2011年度 大津・草津地域マネジメントスクール
主催：大津・草津地域産業活性化協議会

氏名(しめい)	西堀 武 (にしほり たけし) 氏
所属・役職	株式会社滋賀銀行 総合企画部 副部長兼CSR室長
講演テーマ	「企業を持続発展させるCSRの実践」
講演内容	「環境金融」が地球温暖化防止や生物多様性保全をはじめとする、持続可能な社会づくりに貢献できるとの使命を認識し、「お金の流れで地球環境を守る」との思いで、金融機関ならではのCSR活動を実践。
略歴	1959年 滋賀銀行入行 1981年 桜川支店長 2001年 信楽支店長 2005年より現職 2007年 「CSR憲章」と「行動規範」制定 「第9回グリーン購入大賞」環境大臣賞受賞 2008年 「第5回企業フィランソロピー大賞」受賞 環境省より「エコ・ファースト企業」に認定 2010年 「生物多様性保全方針」制定 2011年 「第2回いきものにぎわい企業活動コンテスト」農林水産大臣賞受賞
その他	【公職】 グリーン購入ネットワーク理事、滋賀グリーン購入ネットワーク常任理事、アジア生産性機構(APO)緑の生産性GP諮問委員 淡海フィランソロピーネット事務局幹事 社会福祉法人しがぎん福祉基金事務局長、「小さな親切」滋賀県本部事務局長 【執筆・共著】「地域活性化とリレーションシップバンキング」、「環境と金融・投資の潮流」、「環境リスク戦略」

氏名(しめい)	村田 弘司 (むらた ひろし) 氏
所属・役職	株式会社日吉 代表取締役社長
講演テーマ	「環境産業におけるイノベーションとグローバル化 ～バイオテクノロジー～」
講演内容	弊社は、1955年に創業し、「社会立社 技術立社」を経営理念とし環境総合企業を目指し80種以上の事業許認可を取得して日夜、環境保全事業に取り組んでおります。この半世紀余りの間、環境問題は激変の連続であり、「衛生」⇒「公害」⇒「環境」⇒「生態」と時代の関心や課題は変化し続けています。私どもは、この「世間の兆しを見つめ流れに乗る」ことがイノベーションと考え、また「環境問題に国境なし」と云う考えがグローバル化と云う考えでバイオテクノロジー事業を事例として、その取り組みを紹介する。
略歴	1979年 愛知工業大学 卒業 1979年 有限会社日吉更生社 入社 2007年 株式会社日吉 代表取締役 社長 2001年 滋賀県バイオモニタリング水質管理マニュアル等検討委員 2005年 公益社団法人日本環境技術協会 理事 2006年 滋賀県琵琶湖流域水ビジョン検討委員 2007年 公益社団法人滋賀県環境保全協会 副会長・企画委員長 2009年 社団法人海外環境協力センター 監事 2009年 滋賀バイオ産業推進機構 理事 2010年 龍谷大学 非常勤講師 2011年 財団法人国際湖沼環境委員会評議員
その他	(取得資格) 環境計量士,作業環境測定士,公害防止管理者,化学分析技能士など20種

講師紹介資料

2011年度 大津・草津地域マネジメントスクール
主催：大津・草津地域産業活性化協議会

氏名(しめい)	西岡 孝幸 (にしおか たかゆき) 氏
所属・役職	公益財団法人滋賀県産業支援プラザ 事務局次長
講演テーマ	「企業経営に本当に重要なこと」
講演内容	経済のグローバル化や技術革新、人口動態により経営を取り巻く環境は大きく変化している。このような環境で、特に重要なことは一度立ち止まって経営の軸を見つめ直し、再構築することではないでしょうか。私の経験では堅調な業績を上げる経営者には共通した軸がありました。変化の激しい時代だからこそ本当に重要なものを軸にする必要に迫られるのです。
略歴	1977年富士銀行に入行、26年間ほぼ一貫して経営者と向き合う仕事をしてきた。関西では大阪駅前(梅田)、京都、東大阪支店を経験している。特に1985年プラザ合意→超円高、1986年の前川リポート、1987年リゾート法、バブル経済→バブル崩壊が印象に残っている。2003年3月銀行退職、同年7月に(財)滋賀県産業支援プラザ入社、入社後2004年3月まで客員研究員として(財)日本立地センターに出向。2004年4月に滋賀県に戻り、「コラボしが21インキュベーション」の設立準備、同年9月に施設オープン。創業支援室長、経営支援部長等を歴任、2011年4月より事務局次長。 MBA(立命館大学)
公職活動	日本ビジネス・インキュベーション協会(JBIA理事)

氏名(しめい)	児玉 充晴 (こだま みつはる) 氏
所属・役職	中部大学 経営情報学部 教授 VMSセンター 副センター長 京都大学 工学研究科 非常勤講師 京都大学 産官学連携センター フェELLOW 岐阜大学 工学部 非常勤講師
講演テーマ	「社員のやる気を引き出す企業変革法」
講演内容	企業にとって、最も高いのは人件費である。この人件費を効率化するためには、社員が自ら勉強して、自発的に働いてくれるモチベーションの創出と維持向上が重要になる。今回は、経営者として、どのようなマネジメント手法が、社員のやる気を引き出して、モチベーション向上につながるかについて、中小企業300社から抽出したいろいろな共通点をもとに解説する。
略歴	1978年京都大学工学部電子工学科修士課程卒、電電公社入社 技術局伝送部門、1985年東海通信局施設部調査課長、電子情報通信学会東海支部庶務幹事、1988年企業通信システム事業本部総括部企画担当課長、1991年ハーバード大学ビジネススクール修了(PMD)、1993年NTTリース(株)先端技術推進部長、1996年本社法人営業本部第1営業部システム部金融SE統括部長、2004年チャネル営業本部セールスエンジニアリング部長、2006年名古屋工業大学大学院工学研究科博士後期課程情報工学専攻修了(工学博士号取得)、NTTコミュニケーションズ定年退職 中部大学の教授に就任、2007年国立大学法人東京農工大学技術経営研究科(MOT)教授、2008年京都大学産官学連携センター特任教授(産官学連携)、2009年中部大学経営情報学部教授に復帰。2010年、中部大学VMSの副センター長に就任。
専門領域	電電公社からNTTコミュニケーションズに変革してゆく過程での、企業経験および300社以上の中小企業・ベンチャーに対してコンサルを実施した経験から、日本の企業におけるビジネス方法を研究しています。 専門は、企業が利益向上体質に変革するための“技術の換金学”、“経営心理学”、“営業心理学”、“経営管理手法”、“情報化時代の組織学”、“社員のモチベーション向上方法”、“STAR手法による人材採用方法”などで、利益向上に努力する企業への研修や企業の顧問等を多数こなしています。

講師紹介資料

2011年度 大津・草津地域マネジメントスクール
主催：大津・草津地域産業活性化協議会

氏名(しめい)	西口 泰夫 (にしぐち やすお) 氏
所属・役職	独立行政法人科学技術振興機構 特任フェロー 同志社大学大学院 客員教授 京セラ株式会社 元代表取締役会長兼CEO 博士(技術経営)
講演テーマ	グローバル競争時代における日本企業の課題と対策
講演内容	「情報化時代」に対応した技術経営の5つのキーワードについて、さらに「『ものづくり』に『顧客価値づくり』を加え『ことづくり』へと「発想の転換」について、具体的な実例も交えた講演。
略歴	学歴：1972年大阪教育大学大学院 修士号取得、2009年同志社大学大学院総合政策科学研究科総合政策科学専攻技術・革新的経営研究コース 博士(技術経営)号取得。 略歴：1975年京セラ(株)入社。1987年取締役電子部品事業本部長。1989年常務取締役情報通信本部長。1992年代表取締役専務。1997年代表取締役副社長。1999年代表取締役社長。2005年代表取締役会長兼CEO。2006年取締役相談役。2007年より現職。株式会社HANDY代表取締役社長。同志社大学技術・企業国際競争力研究センター(ITEC)シニアフェロー。独立行政法人科学技術振興機構特任フェロー。同志社大学大学院 客員教授。2010.7京都府産業支援センター「経営戦略会議」アドバイザー。
主な著書	「ケースブック京都モデル」ーそのダイナミズムとイノベーション・マネジメントー 白桃書房 2009、「技術を活かす経営」ー情報化時代に適した技術経営の探究ー 白桃書房 2009、「科学技術と知の精神文化Ⅱ」ー科学技術は何をよりどころとし、どこへ向かうのかー 丸善出版 2011 ホームページ： www.handy-nishiguchi.com/